

クラス番号	632	担当教員名	火口 弥生
テーマ	在宅支援のための住環境整備とその人にとっての価値あるケアを考える		
著書・論文	「高齢者・医療・介護・現場からのレポート」大阪民主医療機関連合会編 清風堂書店		
研究課題等	「ソーシャルワーク 事例研究の理論と実際」共著 中央法規		

ゼミナール概要

キーワード：暮らしの支援 福祉用具を含めた住環境整備 楽しみを支援するケアのあり方

【私の問題意識】

MSW、障害者・高齢者施設の生活相談員を経験し、現在は介護事業（居宅介護支援・通所介護・福祉用具貸与・住宅改修）の経営に携わっています。その中で、自らも介護支援専門員として、日々、在宅支援のあり方を模索しています。

それぞれの暮らし方にはこだわりがあり、その理由があります。その思いに寄り添い、一人ひとりにとって価値ある生活支援の実践の中で、特に「楽しみの支援」に着目したいと思います。

世界レジャー憲章の中で「人は誰も楽しむ権利を有する」とうたわれています。その権利を保障することが本来のケアの目標ではないかと思えます。その支援方法の一つとして、オーストラリア発症の『ダイバージョナルセラピー』（以下DTと記す）を紹介します。DTは「気晴らし療法」と訳されており、一言で言うと「朝、目が覚めたとき、ベッドから起き上がる理由を持てるように手助けすること。」起き上がる理由を提供するのではなく、自身で見つけられるよう側面的に支援することです。しかし、認知症や寝たきりの方との関わりの中で、その権利を保障することの難しさを痛感しています。ライフスタイルや価値観を知ること、そしてエンパワメントの視点を忘れないことが大切です。

DTについての学びを深め、ケアのあり方について考え、また、楽しみを含めた生活の質に大きく影響する住環境整備についてもソーシャルワーカーの視点で考えていきたいと思えます。バリアをフリーにすることは、まずは何がバリアになっているのかを知ることから始まります。本人のみならず家族のライフスタイルにも着目するという点ではDTと共通するものがあります。住環境整備の目的は安全・安心だけではなく、居心地の良さも大切です。一人ひとりの価値観を尊重するケアの実践を目指し、学んでいきたいと思えます。

【ゼミの進め方】

- ①DTについて DTを文献より学ぶ
DTを実践している福祉施設での体験学習
- ②住環境整備について 東京福祉機器展（HCR）に参加
福祉用具の適合や活用方法についてまとめ、グループ発表
モデルルームでの高齢者疑似体験や住宅改修事例より住環境整備の重要性を学ぶ
体験学習や見学・グループ発表を通して、目的達成のためのプロセスの組み立てやプレゼンテーション能力を身につけることを目指します。

担当教員からのメッセージ



ゼミは自己表現の大切な場です。ゼミの仲間力を借りて自分を表現することにチャレンジして下さい。ゼミで学ぶことが実習の場でも活かせるものと思えます。